

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200180		
法人名	医療法人 恵和会		
事業所名	グループホームたじま 2階		
所在地	岡山県倉敷市児島柳田町991-1		
自己評価作成日	令和5年9月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和 5 年 11 月 22 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は医療法人の為、母体病院の主治医と看護師と連携を図り、充実した医療を行っている。その為、入居者様、ご家族様には「安心してます」「信頼してますから大丈夫です」と言ってもらっており、母体の病院にも受診、検査に行き、毎日落ち着いた生活を送って頂いています。現在、コロナの関係で色々ある中でも、ホーム内では、体操や歌をうったり、創作活動をしたり、脳トレをしたり、入居者様同士が楽しく表情よく過ごされています。季節感を味わって頂けるように行事や誕生会などを行ったり気分転換に努めています。日々の体調管理、またその都度、職員全員での情報共有を行いながら、入居者様に寄り添い、希望に沿ったケアが行えるよう心がけています。現在もコロナ禍の為、ご家族様との面会に制限がありますが、変化が見られた時だけでなく、定期的に近況報告を行い、安心して頂けるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体が病院の為、介護と医療の結びつきが強く、細やかな連携が取れています。事業所の特徴としては、随所に工夫や、寄り添う心配りが窺えます。理念にある「笑顔で楽しく過ごす」が日常のケアに反映されており、入居者との会話や活動の中に回想を取り入れ、昔を思い出しながら楽しめる工夫や、成功体験により、意欲的に生活できる様に取り組んでいます。終末期の方にも、生活の質の維持を意識しながら、その人らしい生活が継続できるように意向を汲み取っています。家族には面会や電話による近況報告の他に、写真付きの便りを月に1度送っており、生活の様子が伝わりやすい様に工夫をしています。管理者と職員間は気軽に相談ができる良好な関係性が築けており、チーム全員で取り組んでいく団結力が窺えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内の掲示板、事務所内に職員が常に見ることができるように掲示している。時々、場所の確認も含め、職員間でも確認しあうようにしている。	理念は個々の職員が理解しやすい方法を考え、掲示しています。また随時、職員に声をかけて理念の確認をしています。理念にある「笑顔で楽しく過ごす」を日々のケアに反映して、実践している様子が窺えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	病院受診の際、地域の方と挨拶を交わしたり、お話されることで交流が図れている。	民生委員から地域の情報提供や、通院の際は、地域の方と交流が来ています。本年は、ホームから祭りの神輿を鑑賞する事が出来ており、感染対策をしながらも、地域との交流が継続できるよう努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	できればパンフレットだけでなく、取り組み、入居者様のご家族や母体病院の外来患者様にも見て頂いて、グループホームへの理解を深めて頂けるようにしたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催時には、現在のグループホームに関する事や行事、身体拘束・虐待などを報告し、意見を頂きサービス向上を図っている。	医師、市職員、地域包括センター職員、民生委員が会議に参加しており、感染症や、身体拘束予防の意見を反映しています。地域の介護の課題を、行政等に繋げる場としても活用しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市職員に参加して頂き、アドバイス等を頂いたり、必要に応じて指導も受けている。何か疑問等ある時、また、コロナ対応の時には、連絡し助言を頂いたり、対応に努めた。	感染症の流行時の物資についてや対策、日々のケアについても相談をしており、日頃から関係が築けている様に窺えます。入居者に必要なケアが、適切かどうか判断を迷った際も、市から教示を受けています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議等でも職員間でも気になった時には話し合いの場を設けたり、研修資料等でも職員が周知できるようにしている。一人一人が自由に動いて頂けるよう、行動や表情に注意している。また、移動の妨げにならないよう環境整備にも努めている。可能な限り、そばについて危険のないように配慮し、自由な暮らしを支えるよう心がけている。	身体拘束を行わない事を方針に掲げており、ケアの工夫で予防しています。日中は玄関の施錠をしておらず、外に出たい時は、職員が付き添い散歩しています。研修の開催や資料を事務所に設置して、いつでも閲覧が出来る様にしています。	引き続き、身体拘束の予防を意識しながら、より良いケアに取り組まれる事を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	情報共有し、会議等でも職員間で話し合いの場を設けると共に、研修資料等でも職員が周知できるようにし、声を掛け合っている。管理者は職員のストレスや疲労感の把握に努め、訴えに耳を傾けるよう努めている。一人一人の意見を尊重し、ゆっくりと話を聞くことで安心してもらい、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用している方も居られ、新しい職員にも、成年後見制度についての資料などの配布を定期的に行い、目を通してもらうようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、同意のもと署名・捺印を頂いている。改定の際も同様に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話での近況報告の際に、話をする中で意見が聞きだせるよう、雰囲気作りに努めると共に要望等も聞いている。またその意見を反映させられる様にその都度、ケア会議等で話し合ったり、情報共有している。	面会や電話で意見や、要望を聞いています。家族とは日常的な話も出来ており、気軽に相談が出来る関係性がある様に窺えます。入居者からの意見や要望に関しても、同様に会議で共有して検討しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者にはホーム来所時等に意見交換や指示を仰ぐよう努めているが、なかなか伝わらないことも多い。何かあれば管理者に相談し、また会議・連絡ノート・申し送り等で反映させたり、様子を見ながら必要時には個別に話を聞くようにしている。	管理者と職員の関係性が良好で、日頃から意見に耳を傾け、相談できる関係を築いています。また要望や意見は、会議で検討して反映できる様に努めています。代表者には必要に応じて、管理者から相談しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ほぼ毎日の来所時に職員の状況や変化を把握、助言、指導しているが、職員はそれに対し、ケアへの意欲や向上心、やりがいがないと感じてしまう場面も多いのではないかとと思われる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、職員は職員間で情報交換する事で知識、技術の向上に努めている。 代表者は職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握していると思われるが、信頼関係が築けているかどうかは分からない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加し、グループワーク等で意見交換を行ったり、他事業所の運営推進会議に参加させて頂き参考にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一人一人の拝啓や生活歴等を把握し、声かけ、傾聴等、コミュニケーションを図りながら、要望等を聞き、職員間で情報共有し安心して楽しく過ごして頂けるように努めている。入居者様一人一人に声かけ、寄り添い、1対1で向き合い、コミュニケーションを取りながら、少しずつ信頼関係を築いていくよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に要望等を伺い、来所の際にも職員から積極的に近況報告等を行うことでコミュニケーションを図り、話しやすい関係作りに努めている。また、遠方の方も居られるので、電話連絡での対応も行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの段階で、今のニーズを把握できるように、ご本人様、ご家族様にしっかりと聞き取りを行い、支援するよう努めている。その時すぐでなくても何かあれば言ってもらい、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	気持ちをくみ取り、家事作業やアクティビティと一緒にしながら、会話を通じて馴染みの関係を崩さないようにし、できることはなるべく本人にしてもらい、無理な場合は手伝うなど、本人主体の生活をして頂けるよう努めている。 共に支え合う関係を心がけ、入居者にも励まされ、感謝の気持ちを常に持ち、支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、面会や電話連絡の際、近況報告を行い、意向を聞き、面会時には入居者様を交えてご家族様とコミュニケーションを図り、信頼関係を築けるよう努めている。また、本人にとって生活しやすい環境作りに努めている。 毎月、制作している「ホーム便り」で日々の生活や行事の場面の写真などを配布している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話の中で、思い出話を傾聴し、可能な限り、馴染みの場所などに出掛けたり、関係が途切れないように努めている。一人一人の人生があり、声かけを続けていくことで大切な思い出を忘れないよう会話の中に取り入れている。 面会の時間に制限を設けず、いつでもご家族や知人の方が来られるようにしている。	遠方の方で面会ができない場合は、電話を取り次いでいます。面会では家族を含め、知人の方等が訪問しており、関係が継続できています。時間の制限が無い為、入居者とゆったりした時間を過ごす事が出来ている様子が窺えます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が孤立せず、交流を図れる環境を作り、職員が会話の橋渡しをしたり、一緒に家事作業や体操などを行いながら、皆に声かけ、関わりの時間を増やし、支え合い孤立しないよう努めている。 共同生活の中で時には意見が合わず衝突することもあるが、人間同士の繋がりが、何でも言い合える関係であると考え支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談、依頼等があった場合、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人一人の立場になり、コミュニケーションの中で思いや意向の把握に努め、困難な場合も、ご本人様と職員の話し合いの場を設け、入居者様の気持ちを尊重し、ご本人様にとって良い方向にもってけるように努力している。また、ご家族の面会時に希望や意向を伺い、情報を得るようにしている。	日々の会話から把握しています。話す内容によって、居室で聞き取る等の配慮をしています。寄り添い、安心できる雰囲気作りに努めています。会話が困難な方は、表情や感情の変化で汲みとり、得た情報は職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やご本人様に伺った生活歴等を職員間で共有し、把握に努めている。また日常会話の中で馴染みの暮らし方を聞きだすよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調、状態を、接したり会話等で把握し、一人ひとりを様子観察し、出来る事、出来ない事を見極め、職員間で情報共有、記録に残し、現状の把握ができるよう努めている。個々の一日の様子の現状把握はとても大切なので、細かく把握するように努めている。また、理解すると共に一人一人の出来る事、持っている力を活かせるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回、職員全員で会議を行い、必要時には、その都度、本人や職員の意見を聞き、ご家族様には電話等で近況報告する際に、要望等を尋ね、課題を見つけ、介護計画を作成している。一人一人の状態の変化に気を配り、何か変化がある時には他に職員と情報共有し、改善案を模索するよう努めている。	介護計画は半年または、状況の変化があった際に見直ししており、日頃の情報は連絡ノートで共有し、会議で検討しています。介護計画は入居者からも内容の確認と意見を聞き、本人本意の計画となるように努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の状態把握に努め、いつもと違った言葉や行動に気付く目を持ち、個人日誌やチェック表に記入し、気になることは、職員間でその都度、情報共有し、適切な対応になるように努めている。また、ケア会議でも話し合っている。各入居者の個人記録があり、日常生活の様子や食事量、身体状況などが記録、保存されていて、支援に必要な情報の共有、伝達ができるようにしている。必要に応じて口頭でも伝達し、統一したケアが出来るよう心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の意向をくみ取り、その都度、必要なサービスを提供し、その方に合った支援、満足して頂けるような支援が出来るよう、職員と情報共有し、努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で介護保険課の職員、包括支援センター職員、地区代表の方、近隣のグループホーム職員から情報収集、情報交換を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の病院の医師が、本人やご家族様の希望されているかかりつけ医となっている。かかりつけ医以外への通院は、ご家族様が協力をして下さり、普段の様子や変化を伝えるようにしている。訪問診察に来て頂くこともあり、複数の医療機関とも関係を結んでいる。	本人と家族の意向でかかりつけ医を選択しており、訪問歯科の往診も受けています。母体の病院からは往診があり、 入居者は 曜日ごとに診察を受けています。緊急時はかかりつけ病院へ相談をして、連携しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、状態に変化があれば報告し、ケアの方法など、指示を仰ぎ、受診が必要であれば、その都度、医師に報告し、指示を仰ぎ、早期発見、また、体調管理、維持に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した際は、ホームより情報提供書を渡し、普段の状態や特徴を伝達している。また、早期退院が出来るよう連携を図っている。お見舞いは出来ていないが、ご家族様と連絡を取り、状態を把握出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については、ご家族様に医師から十分な説明を行い、職員からもホームとしての指針の説明を行う事で支援に取り組んでいる。ご本人様やご家族様の意向を汲み取り、医師と職員が連携して、安心して納得した最期を迎えられるように努める。	状態の変化があれば、随時、家族に連絡と意向を確認して医師に報告をしています。家族の思いが揺らいだ時も同様に対応しており、変化する状態や、意向に寄り添った支援がチームで実施できています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の細やかな体調変化も見逃さず、早期報告と観察力を身につけ、処置の方法や対応等を職員間で情報共有し、実践できるように再確認し努力している。急変時の対応は、事務所のいつも目の届く場所に貼っているが、訓練は出来ていないので機会を設けるようにしたい。 ほぼ毎日、医師・看護師の訪問があり、少しの気付き等も相談にのってもらっている。また、緊急時に対応できる医療機関があり、連携がとれる体制を確保している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施。地域の方、主治医、看護師にも参加して頂いている。消防署の方の指導の下、消火訓練も行っている。前回、地震から火災を想定した訓練を行ったが、水害の訓練の実施もできたらと思う。	避難訓練は昼と夜間かつ、エレベーターが動かない想定で入居者と共に実施しています。備蓄の食料や道具は定期的に見直しをしています。地域の方は、感染症流行の為に参加が出来ていません。ホームが高台にあるので地域住民の避難先として周知されています。	検討している水害訓練と共に、感染症対策上、できる範囲での地域住民の参加や、情報交換などの連携にて、より実践的な訓練となる事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人、その方にあった言葉かけや対応を心掛け、人格を尊重し、誇りや尊厳を害さないように努めているが、時々入居者様の言葉より、こちら側優先に使っていることもあるので、都度反省し、職員同士声を掛け合い、次に繋げるよう努めている。援助が必要な時も入居者本人の気持ちを大切にケアを心がけたり、自己決定しやすい声かけをするよう心がけている。	個々に合った言葉掛けと対応を意識するよう努めています。時に対応が難しいケースがあるが、家族との会話からヒントを得たり、職員間で情報共有を行い、本人に寄り添った最適な方法を検討しています。	これからも個々を尊重し、寄り添った対応と、さらなる支援のスキルアップに取り組まれる事を期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の思いをくみ取り、しっかり傾聴し、思いを共有しながら、ご本人様が答えやすく、自己決定できるように言葉かけ等配慮し、希望に添えるよう努めている。また、意思表示ができない方は、家族からの情報や表情からくみ取れるように努めている。入居者の意志を知ろうという考えで支援している。外出の希望等、入居者が自分で決める場面作りをしている。その方の生活歴を考え、「その人らしさ」を引き出す声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせて、その日の体調や状態を見ながら、言葉かけ、傾聴し、寄り添い、都度、どうしたいのかを聞きながら希望に添うように対応している。が、こちら側の都合で決めてしまっていることもあるので、嫌な記憶に繋がらないように配慮していきたい。入居者一人一人の状態や思いを把握し、職員の都合ではなく、入居者が生活の主体になれるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の身支度や整容に時間をおき、なるべく本人で身だしなみを整えてもらうように言葉かけをしながら、一緒に服を選んだり、その時々に応じた(季節や気温にあった)服装を提供し、できない時は介助し、満足して頂けるよう努めている。また、毎月、理美容室の訪問があり、ご希望をお聞きしてカット等してもらい喜んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できるだけおいしく食べて頂けるよう好き嫌いや方さなど、個々に合った食事を提供し、盛り付けを工夫し、行事食等で食べたい物をお聞きして、お出ししている。嫌いな物についても無理強いすることなく楽しんでもらえるよう調理過程で工夫し対応している。簡単な作業(お盆拭き)は、声かけし、一緒に行っている。	季節感や、彩りを工夫して見た目にもこだわっています。入居者は野菜の収穫や、調理の提案等で参加しています。敬老会では仕出しを注文して、非日常的な食事も楽めています。食事中に冷めた場合は温め直しをしており、細目な配慮が来ています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成したメニューに沿って調理をしており、食事以外にもティータイムの時間を設け、水分摂取に努めている。個々の体調など把握しており、状態に応じてキザミ食、ミキサー食、トロミやスプーンを使用している。また、食欲のない時、ターミナルケアの方には高カロリーゼリーや、飲料を提供し、必要摂取量がとれるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後とまではいかないが、朝夕は声かけ、介助にて口腔ケアを行い、その他は必要に応じて頂いている。また、歯科医の往診もあり、気になるところがあれば、その都度連絡し、治療及び指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用し、日中はなるべくトイレの誘導を行い、各自の排泄のパターンを把握し、声かけや話をしながら、一人ひとりのペースに合わせて誘導し、必要な介助を行い、衛生面も考えながら支援している。一人一人、失敗や、オムツの使用を減らし、排泄パターンや習慣を活かしながら、トイレでの排泄や自立に向けた支をしている	トイレに行きたい意思を言葉や表情から汲み取り、終末期の方も含め可能な限り、トイレで排泄が出来るように努めています。排泄のパターンから、紙パンツから布パンツ対応に改善した成果が出ています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医指示の下、体操や散歩、緩下剤、下剤などで排便コントロールを行っているが、飲食物の摂取量に配慮し、食事に食物繊維の食材を増やしたり等の工夫もしている。日中、夜間の水分補給にも気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は決まっているが、時間内での希望には対応している。が、入浴を希望されない方もいるため、衛生面も考慮しながら清潔を保てるよう様子を見ながら声かけを行い、また、楽しんで入浴して頂けるよう支援している。 職員とマンツーマンでの時間なので、しっかりとコミュニケーションを図るよう努めている。	入浴の拒否が合った場合は、時間の調整や職員の変更、声掛け等で工夫をしています。季節の入浴剤や、個々の好みに合わせて温度の調節を行い、気持ち良く入浴が出来るように努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ、日中に体を動かして頂いたり、その日の体調や状態など、様子観察しながら対応し、傾眠ある方も入居者様のペースに合わせて休息時間を作り、布団や寝間着の清潔を保ち、落ち着いて安眠して頂けるよう支援に努めている。眠れない時には、話をして安心してもらえるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医指示の下、薬剤情報提供書をしっかりと確認し、理解を深めている。また変更等があった場合には、薬ノートに記入したり、事務所内のよく見える所に貼ったりして情報共有している。服薬時には、ご本人様に手渡して、服薬出来ているかの確認をしっかりとするよう努めている。分からない時等の時には都度、主治医に聞くようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌、体操、手芸、創作活動等や誕生会、季節の行事、を取り入れ、一人一人が楽しんで頂けるよう努めている。また、軽作業など役割の中で、労いの言葉や感謝の声かけで、ご本人様もやりがいを感じて頂いたり、ドライブや散歩等を取り入れ、気分転換を図ってもらえるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	母体病院への受診、検査に参加。 様子を見ながらドライブに出掛け、それぞれの馴染みの場所を通ったり、季節を感じて頂いたり、施設周辺を散歩する等、気分転換に努めている。	感染症流行の為、医師の方針に沿って外出を行っている。定期的に地域の馴染みの場所や、季節折々を感じる事ができる場所に出掛けています。家族の要望で、県外に出る家族に会いに行く機会があり、家族の意向に沿った外出支援が出来ています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をご自身で所持している人はいないため、ホームにてお小遣いをお預かりしている。希望があれば買い物支援も行っており、喜んで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使用して頂く事が出来、音量を調節して話して頂いている。手紙は声かけ、提供するも書こうとはされないが、要望があれば、いつでも対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が出るようにホール壁面を毎月変えている。創作活動の作品を飾る事で、会話が弾んでいる。季節の行事も行っている。また、常に清潔保持、温度計やカーテンなどの道具を用いながら些細な刺激にも配慮し、入居者に確認をとりながら環境を整備し、混乱を招かないよう、居心地のよい空間になるように努めている。共有の空間が入居者にとって不快や混乱を招かないよう配慮し、居心地よく過ごせるよう工夫している。	月ごとのカレンダーは以前入居者の不安を招く事があったため、現在は日めくりタイプに変更して対応しています。壁には創作した季節の飾りがあります。好きな時に好きな事が出来る様に、好みに合わせたレクリエーションを、手が届く所に配置しており、快適に活動が出来る様に工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人安心してマイペースで過ごしなが、テーブルの配置を工夫して、ホールでは仲の良い方と会話されたり、日光浴や職員と一緒に歌、体操など、楽しんで過ごされている。自室でも自由に出入りされ、一人でも、ゆっくり過ごして頂けるような空間作り、また、状態に合わせて席替えもしたりして居心地の良い場所になるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より持って来て頂ける方に関しては、家具、寝具等を持って来て頂き、自宅と同じような雰囲気でも過ごして頂ける様に工夫している。その際、ご家族様の話をお聞きしながら、ご本人様にとって安心出来る場所になるよう努めている。	自宅から馴染みの家具、寝具、小物を持ち寄り、部屋に配置をしています。入居者の状況や意向に添って畳の上にフローリングを敷くなど、細かい対応が出来ていきます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の状態、状況に応じて会議などで検討し、場所に応じてトイレ、浴室などの表示をしたり、物を設置する時は行動の妨げにならない様に安全面を考慮し、残存能力を活かしながら、無理のない範囲で作業して頂き、自身に繋がりが自立した生活が送れるよう環境づくりに努めている。手すりや壁にすぐ手が届き、転倒予防を考慮した机・椅子の配置にして安全の確保を考慮しながら、自立への工夫を行っている。		